

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401897		
法人名	有限会社 風の森		
事業所名	グループホーム風の森		
所在地	〒859 - 2215 南島原市西有家町長野762番地 (電 話) 0957-82-1502		
評価機関名	(特)ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年8月12日	評価確定日	平成19年8月30日

## 【情報提供票より】(H19年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.45 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1000 円		

### (4) 利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科・吉田歯科・明島整形外科・老人保健施設フォンテ・菜の花クリニック
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム長を始め職員は、熱心且つ活動的で、入居者の方に楽しく過ごして頂くことと日頃から、施設内だけの生活に留まらず、散歩や外出を通し地域の方との触れ合いを大切にしている。その結果、入居者の姿は穏やかな表情であり、その家族へ安心と喜びを与えている。又、市の行政機関との関わりも多く、市が取り組んでいる事業の一つとして、南島原市の花である”ひまわり”の種を蒔き、その成長を見守り、花を咲かせるという「サンフラワープロジェクト」に参加する等、地域や行政機関と互いに助け合う努力が窺える。又、日頃の積み重ねから地域の理解があり、ホームのイベントにも多数の参加・協力がある。入居者は地域に親しみをもって日々、過ごされている。又、庭には柿・みかん・桜の木が植えられており、その先にはベンチが備えてあり、腰掛けて、ホッと一休みしたくなる様な気持ちにさせられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価後、改善点から改善計画シートを作成し全員で話し合いが行われている。改善で挙がらなかった点についても、出来ているからと言って、そのままにせず再度検討していく時間を持ち、今後は継続していくことが大切だと考えることで更にステップアップしていく事を目的として日々取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各棟ごとに職員全員で取り組み、それぞれの視点から意見を記し、その結果総合的な実際の介護の状況を全員でまとめている。自己評価を行なうことで、日々の取り組みを再確認され、ケアに対する意識向上へと繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	その都度、討議内容について、資料を作成し配布している。入居者の状態の報告も兼ねて、ホームの日々の活動内容を明らかにし、同時に避難訓練への協力を呼びかけ理解を求める取り組みを行なっている。回数を重ねる毎にホームに対しての理解が深まり相互で支えあう事への取り組みの一つとして、地域全体で子供を守る「子供110番」への話しがあり、前向きに検討中である。又、運営推進会議が地域・行政機関との連携に繋がりが活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の方が面会に来訪の際、又は電話連絡を取った際には日頃の報告を含め、いつでも意見・要望を聞き入れる体制である事を伝えている。それがホームの運営に繋がる事であると、前向きに取り組む姿勢が窺える。現在、申し出は無いが万が一、苦情の申し出があった場合には「苦情体制措置」の書式の準備があり、苦情等に対して話し合い・検討をし、報告を行う体制が整っており全職員が前向きな思いで取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年数を重ねるにつれ、地域の方のグループホームに対する理解が深まり、入居者が近所への散歩時や買い物時など一緒になって見守って下さっている。逆に台風の時など地域の方で災害に対して不安な方がいらっしゃる場合、ホーム側から安否確認を行う事もあり相互で支え合う姿勢が見受けられる。ホームでのイベント(津軽三味線演奏会)の際には地域の方に参加を呼びかけ、多数の観覧(約150名)があり常日頃から、地域との連携に取り組まれている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた環境の中で暮らし続ける事が出来る為に、豊かな自然、温かな家庭に近い環境での穏やかな暮らしを目指し、地域の方々との関わりを持つ様に心掛けて日々取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所、更に共有のリビングに掲示をして常時、目に触れ易い様になっている。朝の申し送り時に唱和をし、全職員が一丸となり理念に基づき日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方が、グループホームの機能と役割に対して理解があり、自治会始め駐在所等、地域全体との交流が深まってきている。ホームが津軽三味線の慰問を企画の際、積極的に地域に参加を呼びかけを行い、演奏会には多くの観覧があった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、改善シートを作成し話し合い、検討をされている。前回、改善で挙がらなかった点についても、そのままなく今後の取り組みを検討し継続しながらも更にステップアップして行く事を考え、日々取り組みをされている。今回の自己評価についても、全職員で取り組まれた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族代表・地域代表・市職員の方々が参加して事業所の活動内容や入居者の現状報告等について、話し合いの場を設けている。現在、当ホームに対し、地域で子供を守る「子供110番」への話があり検討しており、地域に密着しているのが窺える。又、運営推進会議が地域・行政機関との連携に活かされている。		

グループホーム 風の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南島原市の花である「ひまわり」の種を蒔き、ひまわりの花を増やし輪を広げていく運動(サンフラワープロジェクト)に参加をして市と共に成長の過程を見守っている。ホームが市の広報紙に掲載された事もある等、日頃から関わりが多く、密接な関係が確立している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを作成し、送付している。又、日頃の様子等については随時、連絡を行なっている。金銭管理については、個別に出納帳を作成し家族の確認サインを定期的に頂き、確実に実施されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「気軽に何でも言ってください。」等、常日頃から職員がケアの質の向上の為、声掛けを行っている。今後、万が一、苦情等あった場合でも「苦情体制措置」の書式の準備があり十分な話し合いと検討をし、その結果の報告を行う体制が整っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ顔なじみの職員によるケアに努めている。各棟の間では職員の異動はなく、新しい職員の採用時は顔なじみの職員を交えた体制で対応している。又、新人紹介はホーム便りでも知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームケア研究会等の研修に参加をし、研修後には報告会を行っている。各棟毎に月1度全入居者のケアについて検討をする「サービス担当者会議」を行い職員間で共有をし、レベルアップに繋がる取り組みをされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのケア研究会の勉強会を通じ、情報交換をしてレベルアップに繋げている。ホームで行われた津軽三味線の演奏「やまぼうし訪問演奏会」には近隣の福祉施設からも観覧に来られる等、相互の活動を通じ、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の体調・状況にもよるが、自宅訪問又はホームへ見学に来て頂き、納得した上でサービスの利用に努めている。入院中等で見学に来れない場合はホームの写真(居室等)を見て頂く方法も取っている。入居後、不安や馴染むまでの期間は、同室に家族と宿泊する事も可能な体制を取っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>庖丁研ぎ・畑の肥料やり・農作物等への水まき・食事作りの手伝い等、日常生活において共に支え合い、得意な事を発揮させる場面作りの工夫がなされている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思い(喫煙や飲酒を含む)、希望を把握しアセスメントシートに書き記している。達成が困難な場合は、ケア会議や家族の方等に協力を頂き、検討し取り組んで行く機会を設けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者に対し、職員は担当を決めケアの質の向上に努めている。介護計画作成にあたっては入居者と家族の意向を反映し入居者が暮らしていく上での課題に沿って作成され、同意確認の意味での家族のサインを残している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1度、各棟毎に介護計画に沿って今の状態、今後の課題等を検討するサービス担当者会議を行って見直しを実施している。各棟それぞれの職員が全員参加できる日を選び、熱心に取り組まれている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・入院、退院や付添い等が必要な場合は家族との話し合い・検討を行い柔軟な対応を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけの医療機関で受診できる様、通院介助の支援をしている。体調によっては往診をして頂く事もある。24時間対応可能な医療機関との連携も整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」の書式があり準備体制を整えている。終末期に対するホーム側の考え方と支援内容を明確にし、家族が納得し、同意を得た上での支援体制で取り組んでいる。主治医支持の下、ホームは家族と繰り返し連絡を取り、全員で共有し取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から職員は入居者の個々に合わせた言葉掛けに注意し守秘義務についても周知している。又、面会者等の記録は個人情報の取り扱いに配慮され、1人1枚の紙に記入している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を先ず考慮し、買物、入浴、食事等個人のペースに合わせた支援が行われている。		

グループホーム 風の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ食事を摂り、和やかな雰囲気の中、食事をされている。献立が決まっても、希望に沿って変更になる事もある。生き活きとして、食事作りや後片付けをされる入居者の姿が窺え食事を楽しむ事の支援を行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の制限を省き、入居者の希望に沿った入浴支援を行っている。入浴拒否者に対する支援も、家族、医師、職員一丸となり、6ヶ月が3ヶ月になり、1ヶ月に数回できるようになった成果もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合わせて役割・楽しみ事を見出し入居者が役割を持って過ごせる様支援している。入居者の中で、食事・入浴に気が進まない方がいらっしゃれば、同じ仲間の入居者の方が声を掛けて手助けをしたり、食事中さりげなく横から手伝ったりと入居者の意欲等を引き出す努力をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿い、天気や本人の健康状態により季節感や五感刺激の機会として、外出支援を行なっている。また、事故防止には特段注意を払い、近隣の人々の温かい協力もあり本人の活性化に繋げている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの事務所は、玄関の出入り口と庭先が広い範囲で見える造りになっている為、日中鍵をかける事もない。例えばその日の調子で入居者が落ち着かない場合や様子の変化等あっても、職員は細かくキャッチをし自由な暮らしの支援が行われている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と連携し、火災を想定した避難訓練の実施や、定期的に夜間帯等含め緊急の場合の、職員間への緊急通報も出来る「自動通報装置」を利用した、緊急時の連絡体制の訓練を行っている。又、ホーム独自でも訓練を重ねている。		今後、万が一に備えて、地震対策においてのマニュアル等の整備や地震時に考えられる火災を想定する等、あらゆる災害に対しての避難方法を、今一度、再確認の意味で検討されて行く事に期待したい。

グループホーム 風の森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重チェックを週1度行い、水分制限のある場合の他にも個別に摂取量の把握をしている。食事は昔から馴染みある料理の提供に心掛け、個別に食事量の残量等チェックし記録している。又、一人ひとりの状態に合わせて、持ち易く使い易い皿にする等して個々に合わせた細やかな支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファがあり、テレビを見たり、仲間と会話をしたり好きな時間を過ごす事が出来る。居間には、掘りごたつがあり、昔を思わせる造りになっている。又、台所の入り口には、さりげなく掃除道具が掛けられており生活感が感じられ、入居者が居心地良く過ごせる様な工夫が窺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室への持込については、個人差はあるが家族訪問の際に、寛ぐ為の椅子や馴染みのある物品、鏡台・タンス・仏壇等を持ち込まれており、それぞれが居心地の良い居室になっている。		